

1 単元(題材) 生命のつながり(3) メダカのたんじょう

2 教科の目標

動物の発生や成長について興味・関心をもって追究する活動を通して、動物の発生や成長について推論しながら追究する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、動物の発生や成長についての見方や考え方をもちつことができるようにする。

3 活用したICT

デジタルカメラ, コンピュータ(インターネット)

4 活用したICTの特性

- ・ メダカの受精卵のように、毎日成長し、変化するものの様子を手軽に撮影し、記録することで、前日の写真との比較による変化や班ごとの成長の違いに気付かせることができる。(デジタルカメラ)
- ・ 疑問に思ったことを、すぐに調べられる。(コンピュータ)

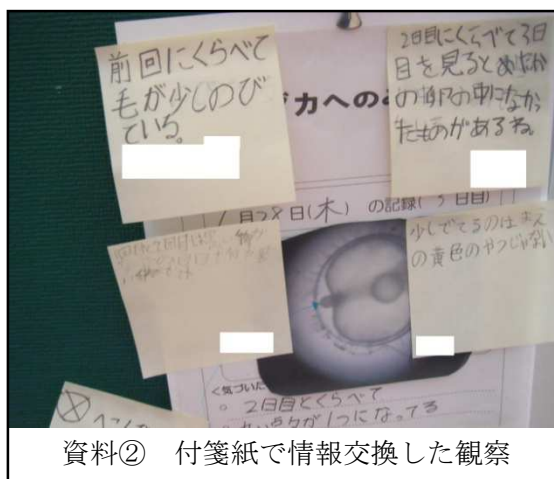
5 実践の様子

① グループごとにメダカの受精卵を顕微鏡で観察し、デジタルカメラで撮影した。その画像を教師がプリントアウトし、児童はその写真と前日の写真とを比較しながら観察し、気付いたことを話し合いながら受精卵の成長の変化を記録した。(資料①)



資料① 受精卵を撮影する子ども

② 他のグループの観察記録を見て、自分のグループの受精卵と違う点、観察の仕方へのアドバイス、写真や観察記録に対する疑問や質問などを付箋紙に書いた。これを他のグループの観察記録に貼り、各グループが観察記録に書いた内容や記録の仕方を学級全体で情報交換した。(資料②)



資料② 付箋紙で情報交換した観察

③ メダカの受精卵の観察を続けていく過程で浮かび上がった疑問点をインターネットで調べた。(資料③)

6 成果と課題

○ 顕微鏡に映っている受精卵を毎日デジタルカメラで撮影し、印刷したものを前回の記録と比較し、グループ内で話し合いながら観察し、記録することで、細かい変化にたくさん気付くことができた。

○ グループ同士で観察記録を見合い、良い点や疑問点などの情報交換をすることで、自分たちでは気付かなかった受精卵の変化や疑問点に気付くことができた。また、出た疑問点をインターネットで調べることで、メダカの受精卵に関する理解を深めることができた。

● 顕微鏡に映っているものをデジタルカメラで撮影することができたが、操作に意識がとられてしまい、もっと受精卵をどのように見るとよいか、視点をはっきりもたせた上で、撮影できるとよいと感じた。



資料③ 疑問点をインターネットで調べる子ども